

奈良・四條遺跡^{しじょう}

- 1 所在地 奈良県橿原市四條町
- 2 調査期間 第三〇次調査 二〇〇四年(平16) 四月～七月
- 3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
- 4 調査担当者 宮原晋一・松井一晃
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(桜井・吉野山)

今回の調査は奈良県立医科大学新病棟建設に伴うもので、調査地は岸俊男氏の復原による藤原京の条坊呼称法でいえば、右京四條五

- 坊(北西坪)・右京四條六坊(北東坪)にあたる。
 検出した遺構には、西五坊大路・掘立柱建物・堀・井戸・溝などがある。
 西五坊大路は幅員六・五～七・一m、溝心間七・九～八・一mである。側溝底面のレベルは、東側溝の方

が西側溝より〇・三m深い。

右京四條五坊北西坪では、南北棟(二間×三間)の掘立柱建物一棟と、西五坊大路東側溝に平行する浅い溝一条を検出した。

右京四條六坊北東坪では、西五坊大路の脇に井戸を、その西側で南北棟の掘立柱建物七棟と堀四条を検出した。掘立柱建物の規模は、二間×四間と二間×二間の建物が各一棟、残り五棟は二間×三間である。隣接する調査地(第二〇次・第二四次)及び本調査地の井戸の配置から、八分の一町占地の宅地と考えられ、重複関係から二度の建て替えを想定できる。

木簡は西五坊大路東側溝の最下層(有機物を含む砂層)から二点出土している。同一層からは土師器や須恵器、斎串のほか、牛の下肢骨が出土した。

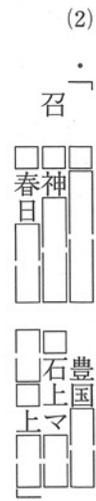
木簡以外の文字資料としては、墨書土器が二点ある。一点は須恵器杯H蓋で、頂部外面に「下□」の墨書がある。西五坊大路東側溝からの出土。もう一点は、須恵器杯B蓋で、頂部外面に「柗□」の墨書がある。西五坊大路西側溝から出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) ・「<楯縫郡」

・「<□□□」

157×27×3 033



(1)は荷札木簡で、「郡」の用字から八世紀の木簡であるといえる。楯縫郡は「和名抄」の出雲国楯縫郡である。

(2)は、下部の左右が破損しているが、下端の一部は原形をとどめ、全体としては短冊形の木簡であったとみられる。墨の残りがかなり悪く、赤外線テレビカメラ装置を用いてわずかに积読できる。「召」以下三行にわたって人名が列記された召文木簡である。なお、表面上段の三人と下段中央の人名の上には「・」状の墨痕がある。召喚者を照合した際に付した合点の類であろう。

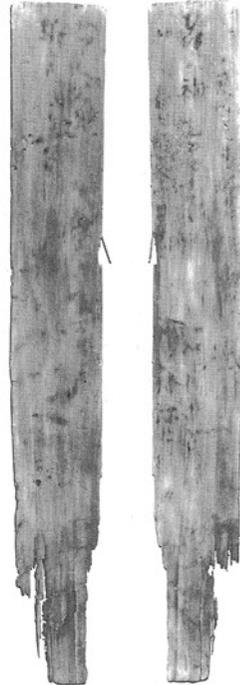
9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報 二〇〇四年(第二分冊)』(二〇〇五年)

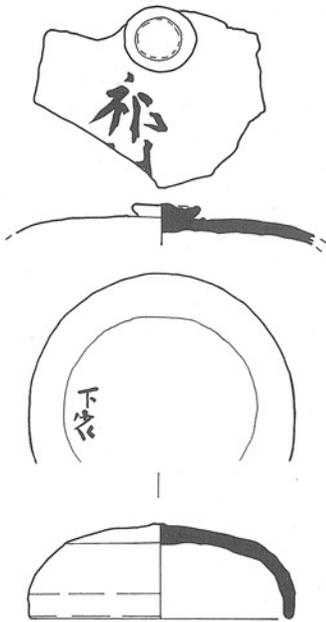
(1) 7・9 松井一晃、8 鶴見泰寿



(1)



(2)



四条遺跡出土墨書土器

(いずれも赤外線画像)